

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270600701		
法人名	株式会社日本ケアリンク		
事業所名	せらび美浜		
所在地	千葉県千葉市美浜区真砂4-2-8		
自己評価作成日	平成29年3月6日	評価結果市町村受理日	平成29年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成29年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居様を第一に、考えて小さな気づきが日々多くあり、体調の変化を見逃さないように支援している。笑い声が絶えない明るい職場となるよう取り組んでいる。衛生面に於いても清潔が保てるよう、入居者とともに清掃を行っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「素晴らしい人生を送ろう」の基本理念のもと、利用者のできる事を支援しながら、経験の浅い職員も、ベテランの職員も一緒に暮らしを楽しんでおり、ユニット間の交流も盛んである。訪問当日の食事では、目の不自由な利用者のために食材を一つひとつ説明している様子が確認できた。おやつは一緒にホットケーキ作りを楽しむなど、利用者も参加できるよう工夫している。また、管理者は利用者が日常的に少しの時間でも外出できるようにしたいと考えている。今年度の目標達成計画は「認知症の理解、知識を深める」「ケアプランの理解と実践」「地域との付き合い」の3項目をきっかけ、目標に向けて努力を続けている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は地域密着を理解しつつ事業所理念を共有せらびの実現を作り上げているが、完全とは言えず課題がある	「素晴らしい人生を送ろう」の基本理念に自由と個性、尊厳と敬意、地域とのふれあいなどを運営理念として会議等を通じて内容の理解を深め、実践につながるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的でないものの呼びかけをしている。交流は、ごくわずかである	ホームは大きなマンション内の3階にあって、マンションの自治会に加入しており、自治会主催の夏祭りに参加している。マンション自治会とはさらなる交流拡大に努めている。また、近くの広場へ出掛けたり、地域のボランティアを受け入れるなどしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	サポーター講座・認知症の研修等にて地域に活かしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催日には、研修を行うなどしせらびの現状を伝えておりサービスの向上を目指している	利用者、家族、地域包括支援センター、民生委員、職員などが参加して実施している。職員や利用者の状況報告の他、事故、ヒヤリハット報告もグラフで示して開示している。	意見交換の内容を議事録に記載することで、さらに会議をサービス向上に活かすことができると思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	援護課及びあんしんケアとの交流にて現状を伝えて協力関係を築く努力している	市の担当課には報告などで出向いたり、反対にホームへの訪問がある。また、運営推進会議には地域包括支援センター職員がメンバーになっており、協力関係づくりをしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修の実践は、必須にて身体拘束をせずケアの取り組んでいる	県主催の研修や法人内研修も機会あるごとに参加している。「虐待の目チェックシート」は法人のフォーマットである。2か月ごとにチェックし確認し合っている。身体拘束事例は過去も含め発生していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の目チェック等の研修を行うとともに虐待が、見過ごされないように、充分注意を払い防止に努めている		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社内必須研修項目でもある。全員理解するまでには、至っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な協議と説明のうえ理解・納得を図れる様行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望が活発に表される様努力を要し、運営推進会議・面会時には、傾聴に努めている	運営推進会議には利用者や家族の出席もある。また、日頃から利用者や家族面会時に意見を聞いた時は相談記入用紙に記録することとしている。意見等については反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議にて報告・連絡し意見を述べてもらう機会があるが、反映とは至っていない現状である	定例のユニット会議、リーダー会議を通じて運営に関わる話し合いを行っている。また、管理者から職員に積極的に声をかけるようにしている。管理者は意見を反映したいと考えており今後に期待したい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間2期にわたり、評価制度の面談及び日頃個々の会話を大事にするよう努め、向上心を損なわない様計画している。会議の重要性も同時にその場に応じ話し合いにて、職場環境の整備にあたっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社研修が年間にて計画し、職員がくまなく受講できる仕組みを構築し外部研修参加後事業所にて研修を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会は少なく各事業所にて外部の勉強会へ参加しサービスの向上を目指している		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談シート及びアセスメントによる書面を活用し本人の想いを受け止めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談シート及びアセスメントによる書面を活用し初期の面談を重要視し関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの経歴と支援を、正しく見極め必要に応じて担当者会議をとりおこない対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的な入居者同士の集まりには、十分な見守りにて良い関係が築けるよう支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族来訪時日頃のご様子を伝え、プライベートな空間を構築している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話、手紙などを通じ関係を維持している	携帯電話を持っている利用者もおり、家族や友人等と話をしている。また、手紙や年賀状で関係継続できるよう支援したり、行きつけの美容院に行く人もおり、一人ひとりを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の支援とは、別に孤独とならないように入居者同士の関わり合いを、多く持ちお互いが支えあうように声掛けが出来る様心掛けています		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在では相談や支援は行っていないが、せらびの手紙等にてお知らせを発信している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしく希望に添ったケアを目指しているが、微力にて完全には行っていないのが現状である	日常の会話や生活の様子を多くの職員の中で見て、利用者の思いや意向の把握に努めている。それぞれのサービスの場면을支援経過記録に残し、計画に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談時のアセスメントにて本人と家族及び関係者とのコミュニケーションを通じ把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状把握に努め、日常のケアに繋げている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニット会議及び単独の担当者会議にてケアプランを作成している	利用者の一番身近にいる居室担当者がモニタリングを行っている。毎月ユニット会議でケアカンファレンスを行い、計画作成時には個別のサービス担当者会議を開催して、家族等の意見も聞きながら、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りノート、職員入れ替わり時間にて、申し送りの徹底し気づきや見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの個性を活かし、捉われないケアを目指し、行事を作成しながら、取り組んでいる		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部ボランティアの訪問が、多くあり、活気あるよう交流を図り支援に繋げている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の往診の他臨時往診し、常に入居者の体調・状況など報告、相談し適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科の往診のほか週1回の訪問歯科の利用により全利用者が歯科治療と口腔内のアドバイスももらっている。他の診療科目についても往診と通院で、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の訪問時及び体調不良の際すぐに連絡相談に繋げ、看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院及び退院の経過を常に敏速な対応を行えるよう、連絡を定期的に行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との経過報告に努め、面談実施と、医師の意見を踏まえチームで支援に努めている	契約時に重度化に対応できるように「重度化した場合における対応指針」「AED使用に伴う意向(同書)書」「事故・体調不良の際の電話連絡方法についての確認」を書面で確認している。法人が重度化対応マニュアルを作成しており、ターミナルケアに備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練には至っておらず、看護師より適切な指示とアドバイスにより、実践している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルに添い避難の方法を伝えているが、不備により課題がある	市の了承のもと、年2回マンションで行われる避難訓練と同時にホームの避難訓練も行っており、利用者のための耐火用の防災頭巾を廊下に準備している。同じフロア内のショートステイと水や食料などの備蓄を共有しているが、今後はホーム独自の備蓄に移行しようと計画している。	ホームでは避難方法について課題があると考えているので、今後の改善に期待したい。併せて夜間想定訓練などについても検討するとよいと思われる。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格と個性を尊重し、言葉がけに配慮した対応を実践している	年3回法人が実施する接遇とプライバシーに関する研修にホームの職員を派遣している。基本として、言葉遣いなど不適切なことがあればヒヤリハットで報告するように共有している。利用者に対する呼称は、苗字か名前をさんづけで呼ぶように統一している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを優先した自己決定が出来るように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを崩さず出来るだけ希望に添うように過ごしているが、見極めが難しい場合表情など汲み取り支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大事にきちんと身だしなみをし、おしゃれを楽しんでいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員は食事の準備片付けを行い、食事を楽しみと出来る様、声掛けには十分注意している	食材を業者から調達し、バランスのよい食事が提供できるようにしている。食事作りや後片付け、おやつ作りには利用者も参加し、食事を楽しめるように支援している。まとまって出かける外食や個別に行う外食も支援し、家族の面会時には外食も勧めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの記録を支援記録とし、わかりやすく記入している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行い状態の把握に努めている		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを活かしてトイレでの排泄及び自立にむけた支援を行っている。また排泄チェック表にて個々の状態の集計で活かしている	自立の人以外は個別の排泄パターンにそって、一人ひとりの体調を見ながらトイレで排泄ができるように支援している。夜間も基本的には、トイレでの排泄を支援しており、ポータブルトイレやセンサーも利用しながら個々に沿った介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の予防に取り組み、医師の指示のもと下剤を用いる場合もある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しみながら、清潔を保ち支援を行っているが、マイナスカウントを申し送り相談後優先者を決めなければならない場合もあり職員不足の為マイナスとなる場合も有りうる	毎日湯を沸かし、入浴の曜日や回数を固定せず個々に沿った入浴が行えるように努めている。利用者の意思を尊重しているが、入浴しない日が3日を過ぎた場合は入ってもらえるよう誘導している。職員は、利用者と一対一で話ができる入浴時間を大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣と状況に応じ休息し安眠できる環境を提供している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の理解の上、支援を行い症状の変化を申し送りし各々確認しているが、教育に関して充分とは言えない場合がある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントした個々の嗜好を、把握し気分転換となるように常日頃の支援に活かしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は、少ないものの年間の計画にて支援するよう努めている。日々の散歩では基本行けるように支援し無理な場合常に工夫しながら支援している	外出支援は年間計画に位置づけ、花見や動物園などに出かけている。誕生日には個別外出を行い、お茶などを楽しんでいる。午前中は散歩、午後からは買い物に行けるようにしており、散歩は業務日誌を確認し、全員が出られるように支援している。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お預り金として管理の上希望に応じている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できうる方の希望に添いやり取りが出来る様に支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く、生活するうえで、混乱が起きないように清掃、飾りつけは季節毎変化を取り入れている	ホームはマンションの3階部分にあり、明るく全体的に落ち着いたたたずまいである。壁には利用者の作品を飾り、季節が感じられるようにしている。廊下にも大きめの布のソファを置いており、ここでくつろぐ人もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の特性を重視し、思い思いに過ごせるよう見守りの上、時間の共有を築いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との話し合い相談し、清潔感のある居住スペースを工夫している	居室の表札は、カラフルで大きめのものをかけている。居室担当者の名前の表示もあり、家族などにもよく分かるよう配慮されている。空調や湿度の管理にも留意し、また、家族の写真を飾るなど、一人ひとりが居心地よく過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は自立した生活を送れるようにまた入居者が混乱がないよう、見えて理解、聞いて理解が出来る様にわかりやすくし安全に生活が送れる様常に工夫している		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所